

英米文化学会会報

第 60 号

平成 16 年 7 月 20 日版



第 22 回大会の会場となる文京学園軽井沢セミナーハウス

目次

英米文化学会第 22 回大会開催のお知らせ
大会研究発表レジュメ
『英米文化』投稿のお願い
事務局からのお知らせ

英米文化学会第 22 回大会のお知らせ

標記の大会を以下の要領で開催します。

開催年月日：平成16年9月11日(土)・12日(日)

開催場所：文京学園軽井沢セミナーハウス

〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町大字軽井沢 1019-247

懇親会：同セミナーハウス食堂で11日18時から。費用は5000円。

11日(受付開始 13:30)

研究発表 14:10～15:40

1. ブラックプールの人類学
様相に関する一考察

マス・オブザベーション運動と 1930 年代労働者階級レジャーの
福西 由実子(東京大学大学院)

2. ホップズのリヴァイアサンとは鯨の意味なのか

小林 弘(東京理科大学)

講演 16:00~18:00

『ジョージ・クルックシャンクと19世紀イギリス文化』

小林 章夫教授(上智大学文学部)

12日(受付開始 9:10)

研究発表 9:30~15:00

1. アトウッドの動物に込められた意味 塚田 英博(城西大学)
2. 図表を利用した読解力要請のための研究 平野 靖雄(千葉大学)
3. アメリカの株式会社による公立校経営 サンフランシスコ統合学区のエジソン・チャーター・アカデミーを事例として 鵜浦 裕(文京学院大学)
4. フレームにおける際立ちの働き 亀山 孝(共愛学園高等学校)
石井 有美(千葉大学)
5. アメリカ理解教育を目的とした授業実践構想 多文化社会アメリカ理解教育の単元開発
田嶋 英治(東京都立井草高等学校)
6. 「女方」はグロテスクか? 日英比較演劇学の視点から 門野 泉(清泉女子大学)

会場となるセミナーハウスの宿泊(二人部屋)はまだ余裕があります。(1)か(2)の番号を明記して電子メールまたは葉書で大会事務局までご連絡ください。(1)8200円(懇親会費および翌日の朝食・昼食代込み)です。(2)懇親会のみ参加希望者は5000円です。大会に関するお問い合わせは、大会事務局を通してのみお受けいたします。

大会事務局:日本大学歯学部 佐藤治夫英語研究室

〒101-8310 千代田区神田駿河台1-18-13 日大歯学部

電話 03-3219-8160 E-mail: HaruoSato@SES-online.jp

第22回大会発表レジュメ

<11日>

1. ブラックプールの人類学 マス・オブザベーション運動と1930年代労働者階級レジャーの様相に関する一考察 福西由実子(東京大学大学院)

英国北部ランカシャーに位置するブラックプールは「北のレジャーの聖地」とも「社交ダンスの地」とも呼ばれ、産業革命期に工業化で人工が急増したリバプールやマンチェスターの工場働く労働者の余暇を楽しむ保養地として19世紀に発展した。一方マス・オブザベーション運動(M-O)は、1937年に人類学者トム・ハリソンらにより始められた大衆調査運動である。彼らは、当時のジャーナリズムが「普通の人々」の生活レベルや意識を捉え切られていないという不信感から、全国から5千人以上の「マス・オブザーバー」を募り、労働者階級の生活様式に関する様々な調査を実施。その方法は(階級意識や趣味(テイスト)を反映するとされる)仕草の描写、会話内容の聞き書き等が中心となった。本発表では、M-Oが労働者階級レジャーの象徴的な場として初めてブラックプールを取り上げた点に注目し、さらにそこに集う人びとを文字や写真、時には絵を用いてどのように表象したのかを考察し、その意義と問題点を論じる。

2. ホップズのリヴァイアサンとは鯨の意味なのか

小林 弘(東京理科大学)

ホップズ研究者達は、これまで、ホップズの主著の題名になっている「リヴァイアサン」についてあまり深く論究されてこなかった。それは「リヴァイアサン」という用語が『旧約聖書』の「ヨブ記」に登場している怪獣を表わすことばであったために、彼等には馴染み深いことばになってしまったせいであろう。そこで国家(コモンウェルス)の比喩として使われたホップズの「リヴァイアサン」とは一体どんな意味なのか。言い換えれば、ホップズは国家を鯨、大怪獣、それとも巨人のいずれかの比喩で理解していたのかを改めて問い直してみることにする。その際に、OEDの「リヴァイアサ

ン」の語義を参考にして、現代の意味論の手法を使って「リヴァイアサン」の意味分析をする。次にその意味分析の成果を手がかりにして、ホップズの「リヴァイアサン」の解明を試みる。その解明の試みにあわせて「可死の神」「コモンウェルスの魂」等にも言及する。

< 12日 >

1. アトウッドの動物に込められた意味

塚田英博(城西大学)

カナダの作家、アトウッドは文芸批評書、『サバイバル』で、「動物」物語とは動物 について人間によって書かれた話であり、「動物」物語の動物はひとつの象徴、つまり人間自らの願望や恐怖の投影であると述べている。つまり、「動物」物語の動物 は、語り手、ひいては作者の主観が反映された像ということになる。また、文学において動物がいつでも象徴であるという前提から、カナダ文学における動物の象徴の中にカナダ国民の精神の特徴、「犠牲者」があると言う。アトウッドの作品、『浮かび上がる』にはビーバー、カケス、鷲、触手のある動物が現われている。『サバイバル』で述べられているアトウッドの考えを適応させると、この作品に描かれている動物はカナダ的な動物像を表し、しかも作者アトウッド自身の主観をも内在させているはずである。本発表では、この作品の動物像を検証し、カナダ的動物像からはみ出る、アトウッド独自の動物像を確定していく。

2. 図表を利用した読解力養成のための研究

平野靖雄(千葉大学)

読解指導においてテキストの要旨を表す図表(graphic representations-GR)が有効かどうかを検証した研究である。ややもすれば逐語訳的な読みに陥りがちな日本人英語学習者が、テキストの大筋を把握できるようになるための読みのストラテジ - として、図表の有効性を実証したものである。当研究では、GRの指導が全体として文章構造の認識を高め、読みに対して学習者に積極的な態度を生み出し、学習者の読解力を高めるといった効果をもたらした。ChamotもOxfordもlearning strategyとしてはっきりとgraphic organizerの活用をすすめているのにもかかわらず、その研究には十分説得力のあるものが少ない。今後の日本の読解指導に何らかの益になると信じる次第である。

3. アメリカの株式会社による公立校経営 デミーを事例として

サンフランシスコ統合学区のエジソン・チャーター・アカ
デミー 鶴浦 裕(文京学院大学)

アメリカには公立校を経営する株式会社がある。その現状について、次の順序で報告する。(1) 株式会社が公立校経営に参入するための制度、(2) 株式会社の公立校経営を容認するアメリカ的理由、(3) 公立校経営を全国展開する株式会社の事例としてエジソン社、(4) 同社運営校の事例としてサンフランシスコ統合学区のエジソン・チャーター・アカデミー、(5) 日本における同様の動きについて。最近日本でも厚生省管轄の保育園では公設民営型の教育機関が次々と誕生している。また構造改革特別区域制度により株式会社やNPOによる学校経営の道が開かれつつある。しかしその公立校経営、とくに義務教育レベルの公立校経営については、「営利目的は教育になじまない」あるいは「財政が安定しない」という理由で、文科省はかたくなに認めようとせず、日本の状況は中途半端になっている。そのような時期に、日米の社会的背景のちがいにも留意しながら、アメリカの事例を参考してみたい。

4. フレームにおける際立ちのはたらき

亀山孝(共愛学園高等学校) 石井 有美(千葉大学)

言語使用・理解の際に設定されるフレームの中では、参照点構造が有効に働くことが判明している。この参照点の出現に関しては、「際立ちの原理」が存在する。この原理に不可欠なものが、「FigureとGroundの分化」の理論である。この理論は「ルビンの盃」で代表されるように、われわれの主體的な働きかけにより、同じ図形の解釈(人の顔または杯)が変わるといものである。この現象は、空間の配置や時間の中での出来事についての言語表現にも反映されるのである。認知言語学では、話者側からの主體的な表現を、いかに受け手側がその発話を理解し解釈したかが重要と考えるのである。本発表では、「ベースとプロファイル」という「FigureとGroundの分化」では代表的な考えが、メタファーやトニミー表現を含む英語の単文・複文・様々な構文にいかんにか反映されているかを調べ、その具体例を分析してみる。

5. アメリカ理解教育を目的とした授業実践構想 多文化社会アメリカ理解教育の単元開発

田嶋 英治 (東京都立井草高等学校)

本発表は研究プロジェクト、「多文化共生の視点による米国理解教育の教材開発と実践」の中間報告の一部である。現代のアメリカの社会や文化は、エスニック問題の「ハイブリッド化」がひとつの特徴であるが、これは多文化社会米国理解教育のキーワードでもある。本研究では、まずハイブリッド化が進む「アメリカ合衆国についての調査」を高校生に実施した。その結果として分かったことは、彼らの理解が「ステレオタイプ化」されていたり、現実のアメリカとはかけ離れていることが多いということであった。本発表では、(1)高校生のアメリカに関する理解度の分析 (2)文部科学省検定による高校英語教科書(出版社各社)の、アメリカに関する単元の取り扱いの分析 (3)多文化社会米国理解教育の単元開発、の三つに焦点をあて発表する。

6. 「女方」はグロテスクか? 日英比較演劇学の視点から 門野 泉(清泉女子大学)

シェイクスピアの時代の商業演劇では、少年俳優や男優が女性の役を演じていたが、王政復古期に女優が登場して以来、いわゆる「女方」の伝統は英国から消滅してしまった。近年、エリザベス朝の劇場や舞台に関する研究が進み、当時の上演形態を復活する試みの一環として、すべて男優によるシェイクスピア劇がロンドンで毎年のように上演されるようになった。日本では能や歌舞伎では男性が女性の役を演じる伝統が継承されているために、男性が女性の役を見事に演じる事を当然のように受け止めているし、歌舞伎では女方が芝居の大きな魅力となっている。ところが「女方」の伝統を失った現代の英国では「女方」への不信感が根強く存在するように思われる。今日の英国の「女方」は無骨な動作や大げさな演技で笑いを誘い、女性としての不自然でグロテスクな様子を強調する傾向が目につく。そのような「女方」の扱い方の背後には、女性でなければ女性の役をリアルに演じる事ができないという英国人の思い込みが存在するように感じられる。今回の発表では、現代に蘇った英国の「女方」を通して、シェイクスピア劇の「女方」を考察する。

『英米文化』投稿希望者へのご案内

『英米文化』第35号の投稿締め切りは10月31日です。投稿規定は『英米文化』第34号をご覧ください。新入会員で投稿規定が必要な方は事務局までお申し込み下さい。Eメールまたはファックスにてお送り致します。その他投稿に関してのご質問は学術担当の上野和子理事 (KazukoUeno@SES-online.jp、tel:03-3425-4678 Fax:03-3425-4944 〒154 0017 東京都世田谷区世田谷3-22-21)までお寄せ下さい。

財務からのお知らせ

6月12日の例会後の臨時総会におきまして、平成15年度収支会計報告書と平成16年度予算案が承認されました。なお、会計監査は5月28日に、山下信一先生により厳正に行われました。

予算案の実行のためにも年会費(5,000円)の納入をお願い致します。ご不明な点がありましたら、財務担当の大東俊一理事(ShunichiDaito@SES-online.jp)までお寄せ下さい。

以下に、承認された会計報告書、予算書を掲載します。

平成 1 5 年度英米文化学会収支会計報告書

平成 16 年 6 月 12 日
財務担当理事 大東俊一

自 平成 1 5 年 4 月 1 日 至 平成 1 6 年 3 月 3 1 日 単位：円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	1,003,838	事務局費	487,264
学会費	1,141,000	学術委員会運営費	606,335
学会誌(33号)掲載料	390,000	広報費	99,796
印税	1,635,502	渉外費	5,000
学会基金より	850,000	分科会運営費	131,099
雑収入	6,300	大会運営費	87,912
		例会運営費	5,150
		理事会運営費	96,509
		翻訳特別プロジェクト費	26,225
		フォーラム費	858,339
		出版助成費	1,841,508
		諸雑費	272,463
		次年度繰越金	509,040
合計	5,026,640	合計	5,026,640

平成 1 6 年度英米文化学会会計予算案

平成 1 6 年 6 月 1 2 日
財務担当理事 大東俊一

自 平成 1 6 年 4 月 1 日 至 平成 1 7 年 3 月 3 1 日 単位：円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	509,040	学術委員会運営費	750,000
学会費	1,000,000	大会運営費	500,000
学会誌(34号)掲載料	570,000	例会運営費	20,000
印税	1,034,352	分科会運営費	150,000
学会基金より	1,200,000	理事会運営費	120,000
雑収入	50,000	評議員会運営費	40,000
		出版助成費	1,900,000
		翻訳特別プロジェクト	100,000
		広報費	140,000
		渉外費	20,000
		事務局費	300,000
		サーバー賃借料	113,400
		予備費	209,992
合計	4,363,392	合計	4,363,392

事務局からのお知らせ

大会・例会での発表者・司会者の為の、招聘状の発行について

例会・大会での発表・司会をなさる会員で、出張費用などの請求に必要な招聘状は事務局で発行いたします。所属機関にての所定の用紙がある場合は、発行日の指定、必着日などあれば別紙にご指示いただき、事務局あてにお送り頂き、その旨メールなどにてご一報ください。指定用紙が無い場合は、学会の方で通常お送りしている標準書式にて送らせていただきますが、その場合も、発行日の指定、必着日などあればご指示をメールでの申し込み時に、併せてお知らせください。

事務局への連絡先追加

支払いから何まで万事が携帯電話で済みそうな、このような時代になりましたので、メールでの連絡先に加えて、事務局への連絡用の携帯電話番号をお知らせしておきます。AU の携帯電話で、番号は080-5084-8783です。私の携帯電話は、公衆電話ならびに発信者番号を発信しない状態の非通知電話(184 送信)からの着信はできませんのでご注意ください。事務局の電話番号03-3219-8160 におかけいただいても、近頃は留守番電話にしておりますので、在室時以外は連絡がつかないことが多いものですので、通常の学会メールアドレスに加えて、携帯電話へのご連絡、または携帯メールアドレス shakey23@ezweb.ne.jp への送信をお願いいたします。

会員の動き

【新入会員】

省略

【住所変更（新住所など）】

省略

英米文化学会会報 第60号

編集/発行：英米文化学会

編集責任者：石山伊佐夫（広報担当）

Isaolshiyama@SES-online.jp

〒224-0028 横浜市都筑区大瀬西3-3-1001

045-592-6570

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

問い合わせ先 英米文化学会事務局 佐藤治夫 03-3219-8160

E-mail: HaruoSato@SES-online.jp 学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>